

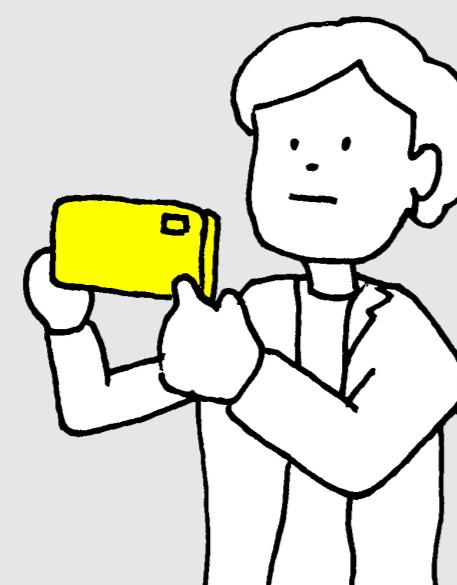
水害にあつたら
まず行うこと

生活と住まいの再建 水害にあつたらまず行うこと ①

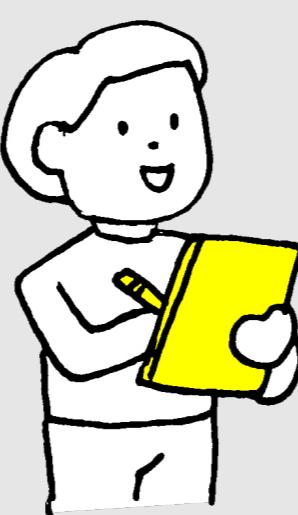
コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

水害にあった場合、行政などから様々な支援を受けられます。必要なことを確認しておきましょう。

1 被害の写真を撮る



2 片付け方法を確認



3 署名証明書を申請
りさい



4 保険会社に連絡

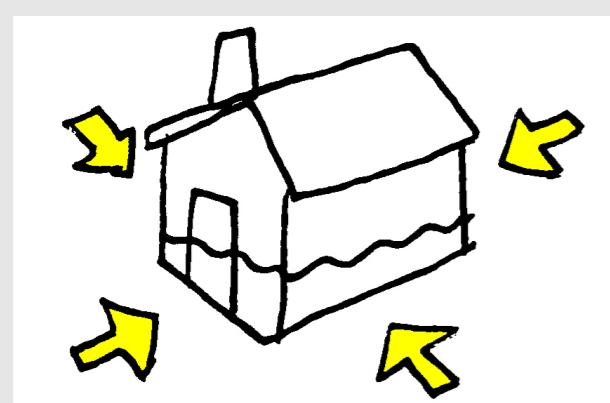


自宅の被害状況を撮影する

支援や保険をスムーズに進めるため、片付け前に被害状況を記録しましょう。

1

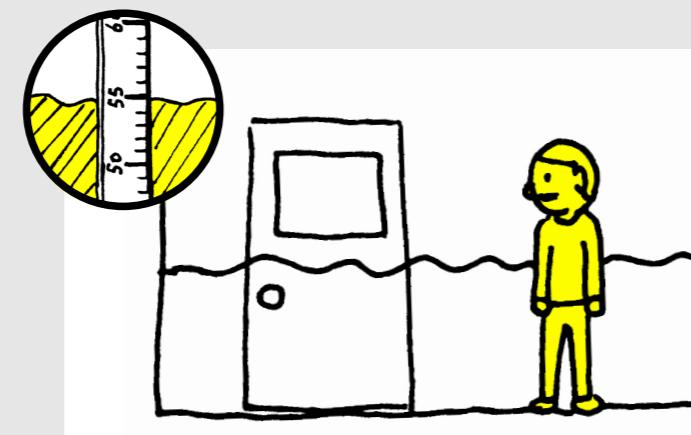
家の外を
4方向から撮影



一番低い浸水深が
基準になります。

2

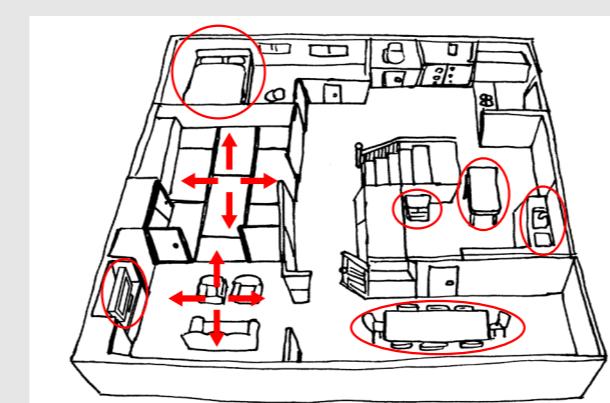
浸水の深さが
わかるように撮影



横に立ったりメジャーなどを
添えましょう。

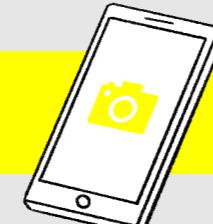
3

すべての部屋とキッチン、
洗面台、家具、家電類を撮影



家電類はメーカー製品番号も
わかるように。

スマホの写真・動画撮影でOK



物置や車など被害にあったものは
なるべく撮っておこう。

片付け内容を確認

工務店や建設会社などに連絡

被災した自宅を自分で直せるかの判断は、プロのアドバイスが役立ちます。まずは、家を建てた工務店や建設会社などに、作業内容を相談しましょう。

災害ボランティアセンターに連絡

片付けは災害ボランティアに手伝ってもらえます。市町村の災害ボランティアセンターに相談を。



水害にあつたら まず行うこと

生活と住まいの再建の備え 水害にあつたらまず行うこと ②

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

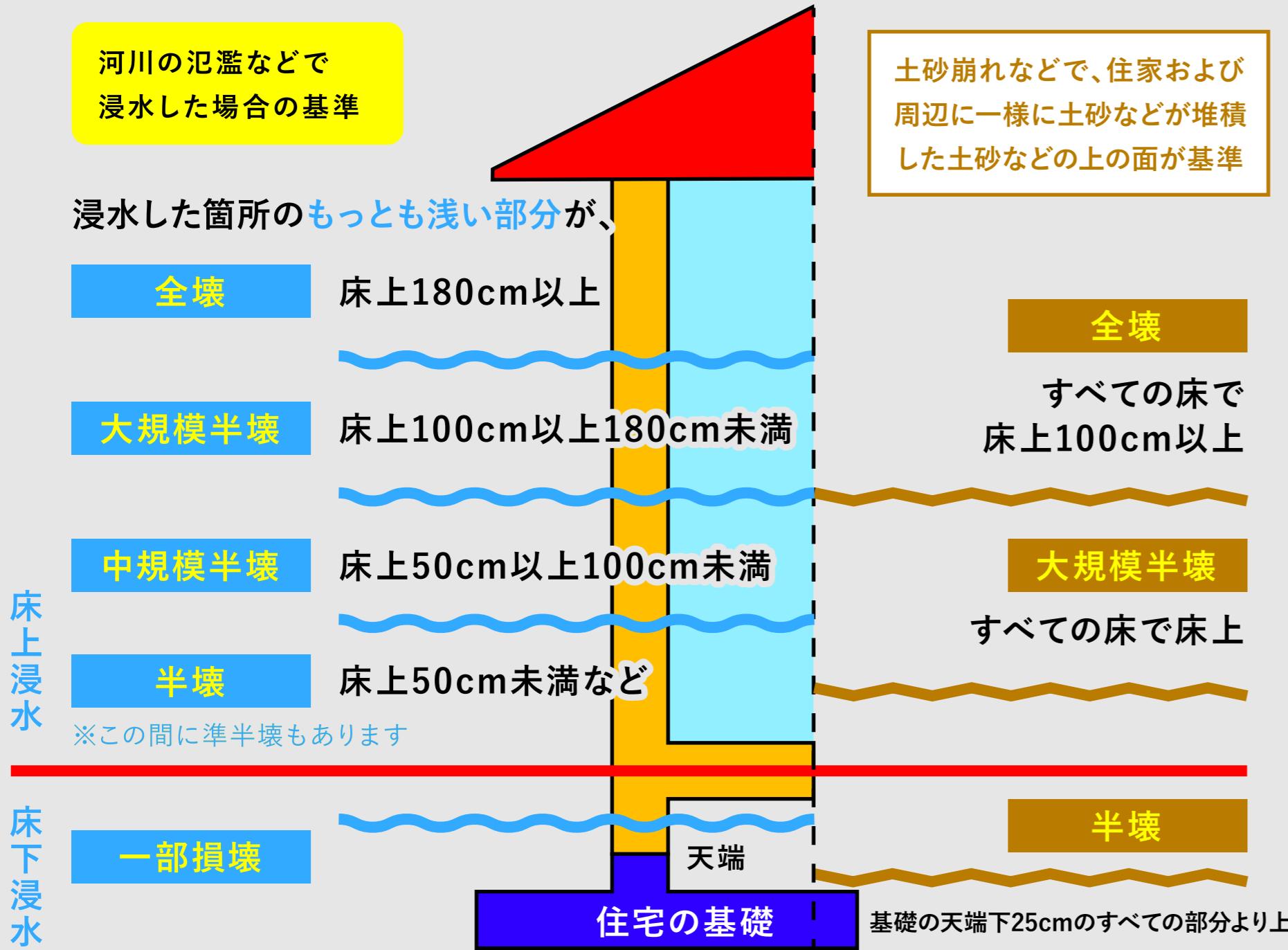
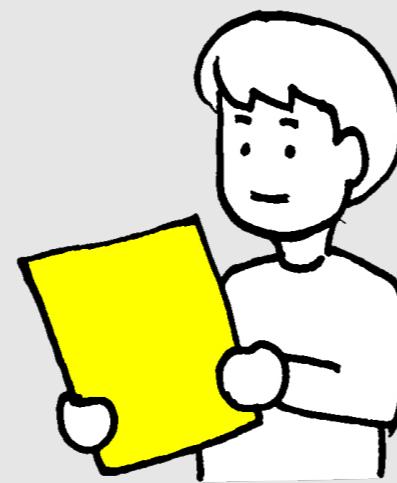
罹災証明書を受け取るのが支援を受けるスタートです。保険会社にも忘れずに連絡しましょう。

「罹災証明書」を申請する

住宅の被害の程度を証明する書類です。

被害の程度に応じて区分があり、受けられる支援が
変わります。自宅に被害が出た場合には、
市町村の窓口で必ず申請してください。

2021年6月現在:水害での被害認定の目安(木造戸建て住宅)



参考:内閣府「災害に係る住家の被害認定基準運用指針(2021年3月)」

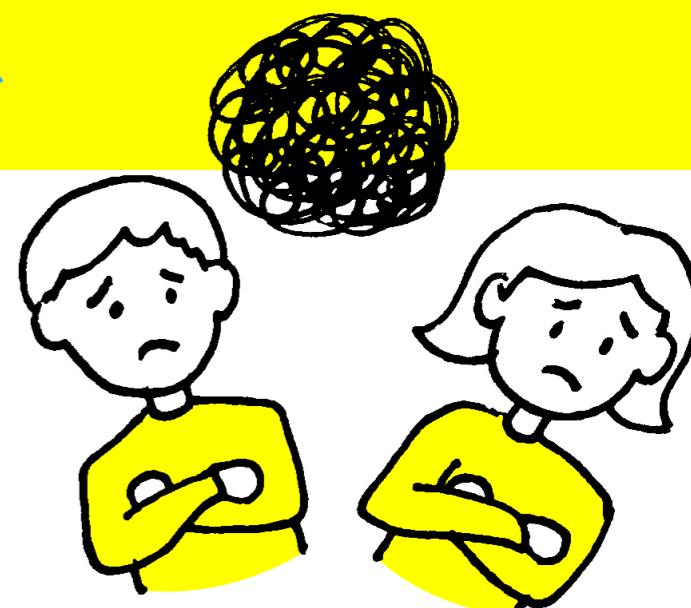
交付まで時間かかることも

罹災証明書は市町村が被災した住宅を調査した上で交付します。大災害では、申請・交付に時間がかかることも。現場の記録はしっかり残しましょう。



納得できないときは『再調査』を

罹災証明書は再調査を依頼できます。
認定内容に納得できないときは、
遠慮せず市町村に再調査を依頼しましょう。



保険会社に補償内容を確認

火災保険に加入していれば、保険金を受け取れることも。
契約している保険会社に確認しましょう。
保険会社が分からぬ時は、以下に連絡しましょう。

自然災害等損保契約照会センター
TEL:0120-50-1331(無料)



水害にあつたら
まず行うこと

生活と住まいの再建 家の片付けをする際に気をつけること ガイド

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

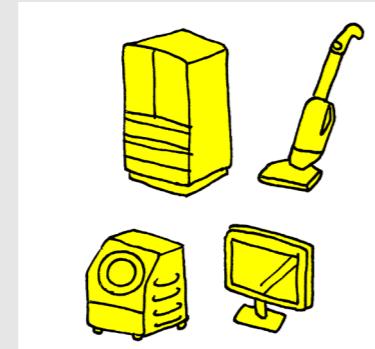
水害時の家の片付けでは、けがや病気のリスクがあります。安全に作業をするために作業内容や服装、体調に気をつけましょう。

片付け前に点検

被害状況によって片付け方法は様々。以下のポイントをチェックし、作業内容を決めましょう。
カビなどの影響で被害が拡大することも。早めに作業しましょう。

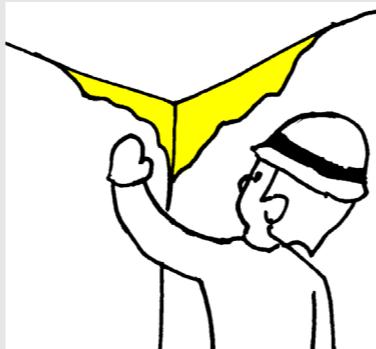
□ 家財・家電

家財や家電が濡れた場合は家の外に出す。



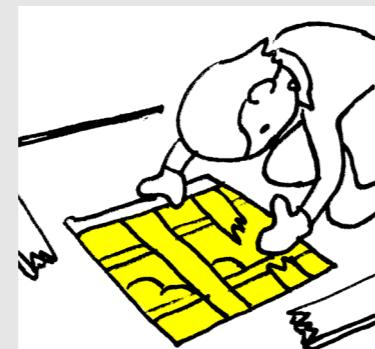
□ 天井・壁

天井や壁が濡れてしまった場合は断熱材などを外す。



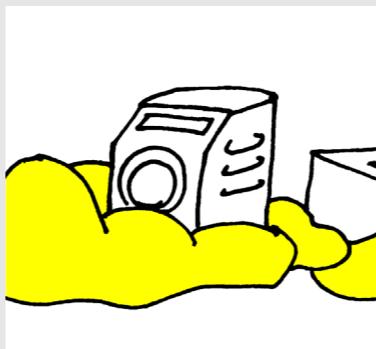
□ 床下

床上浸水していない場合も床下をチェック。浸水している場合は床下の洗浄を。



□ 土砂

土砂が入った場合はまずは土砂の撤去を。

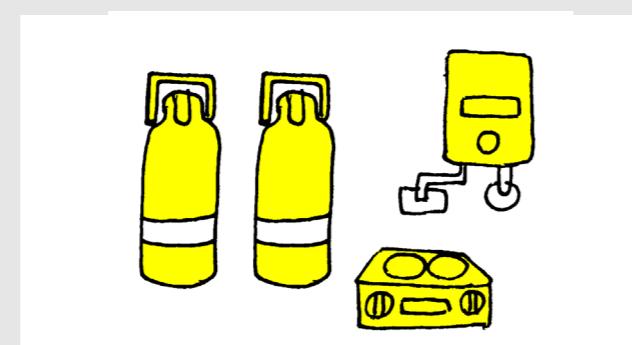


作業の時に確認すること

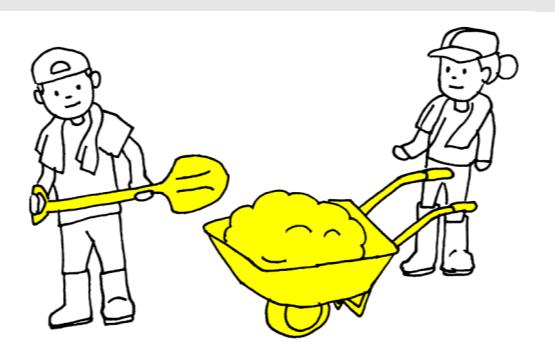
周囲の安全を確認



電気ガスなどをチェック

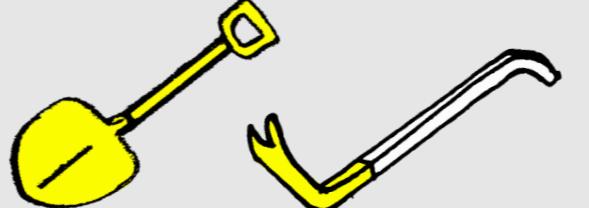


作業は複数で



準備するもの

- ほうき
- 雑巾、タオル
- バール
- モップ
- スコップ
- トンカチ



片付けの服装

安全確保のために、あるものを活用して肌の露出を避けた服装にしましょう。



！ 熱中症・感染症に十分注意

片付けは肉体的・精神的にも負担ですので無理をしないでください。
こまめに休み、水分や塩分をとりましょう。
また、災害時は新型コロナウイルス以外にも様々な感染症のリスクがあります。
マスクなどを装着し除菌を心がけましょう

水害にあつたら
まず行うこと

生活と住まいの再建 浸水した家の片付け方法

コロナ禍でもすぐできる
防災アクション
ガイド

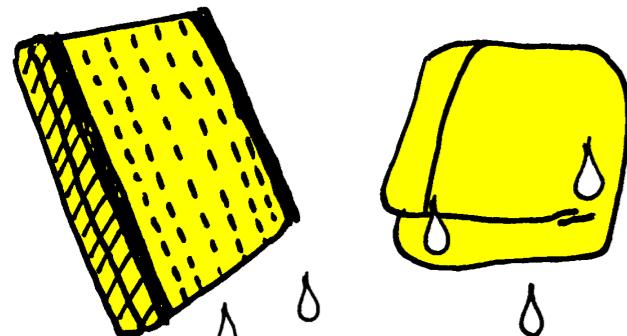
家財道具の仕分けや天井などの清掃のポイントをおさえ、すまいを再建しましょう。

ぬれてしまった家財道具の仕分け

ぬれた家具や家電類を仕分けましょう。再利用できないものは処分を。

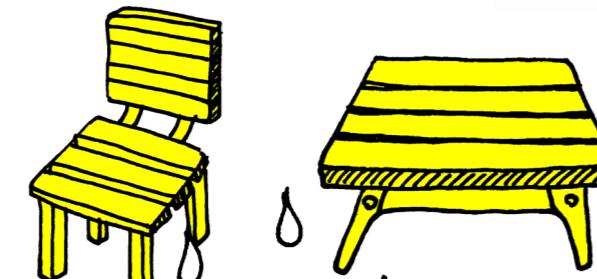
再利用できないもの

畳・じゅうたん・布団



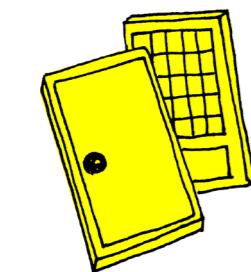
水を吸うと使えなくなる

木製の家具(合板)

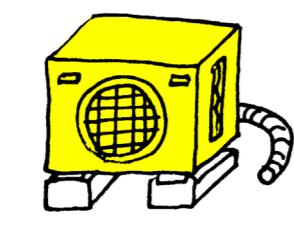


乾いたように見えても
あとでカビが生える場合も

使えるかもしれないもの

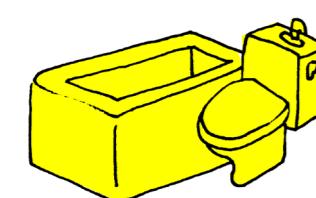


ふすま・障子

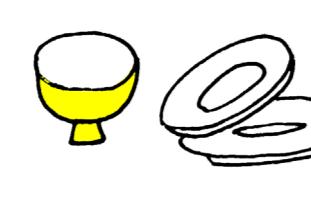


エアコン室外機

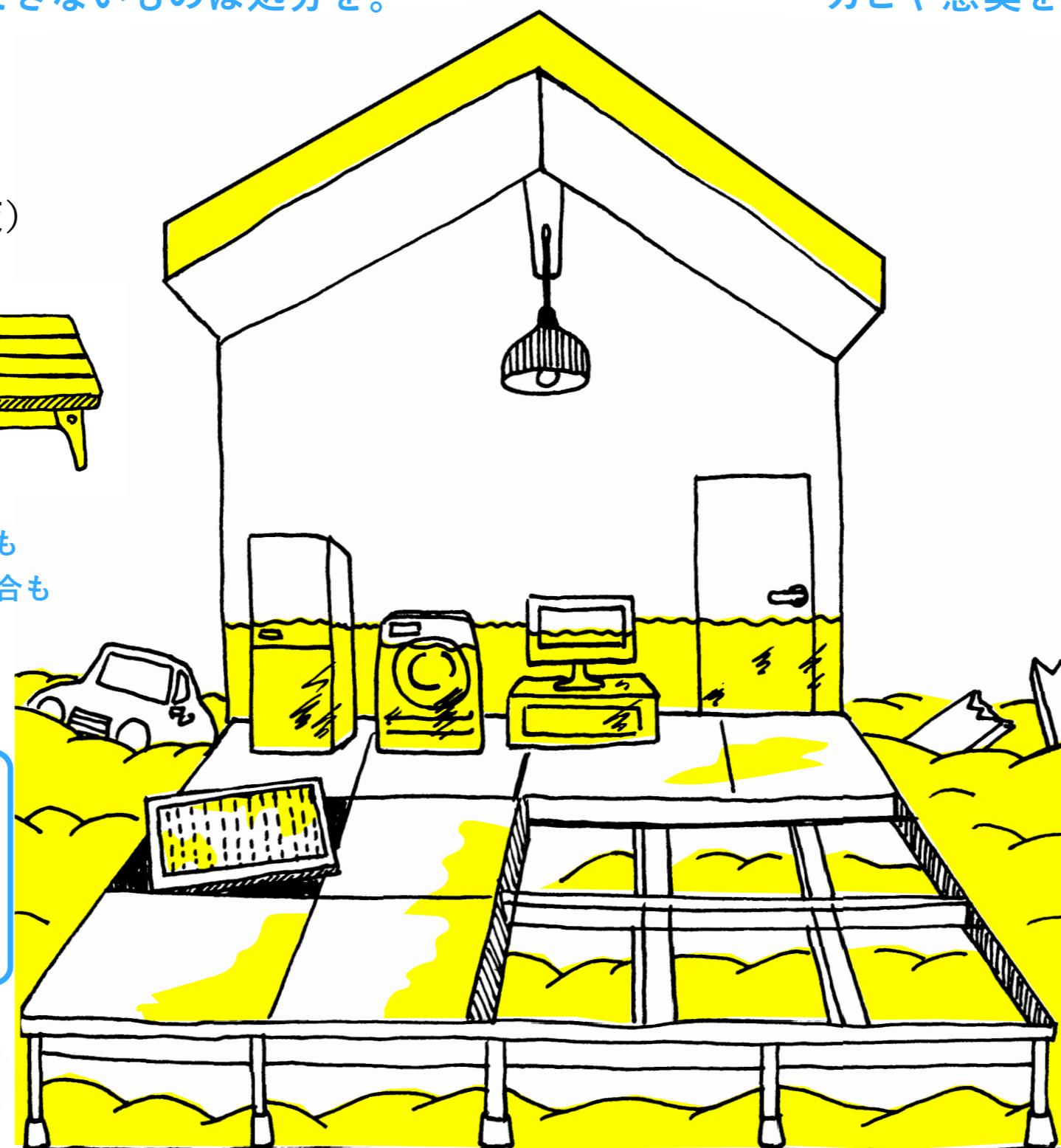
乾燥・消毒
すれば使える
場合も
あります。



トイレ・バスタブ



食器類・薄手の洋服



ゴミ捨てのルールは普段と違います。役場に確認して、
使える袋の種類や捨てる場所・分別方法などをチェックしましょう。



天井や壁の除去、床下の泥出しは危険を伴います。自分でできないと
思ったら、工務店や災害ボランティアセンターに相談しましょう。

天井・壁・床下の清掃

カビや悪臭を防ぐために、適切な清掃を行いましょう。

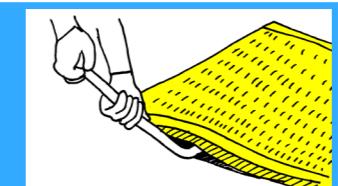
天井、壁の除去

天井や壁が浸水した場合は天井板、壁を外す。

床下の泥出し

1 床をはがす

畳の場合

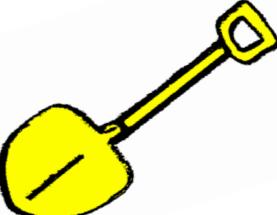


フローリングや
じゅんたんの
場合



バールなどで床を開ける

確認して工務店に相談



2 泥出し

床下に入って土砂を取り出しましょう。
小さなスコップがあると便利。
床下は狭くて、危ないので十分に注意を。

3 徹底した洗浄

泥が完全になくなるまで、くりかえし洗浄しましょう。

4 地面と建具の乾燥

洗浄後は十分に乾燥を。目安は2ヶ月ほどです。
その後は施工会社に相談して工事してもらいましょう。